

どのような基準で学業成績の結果を出したか。 【創造科学系】

「美学概論」では毎回提出される小レポートに示される講義内容に対する理解の正確さや深さ、関心の程度を測るとともに、提出回数などから授業に取り組む意欲を加味して評価している。
「美術科内容論Ⅰ」では小レポートに加えて学期末にまとまったレポートを課し、講義内容に対する理解の正確さや深さ、関心や意欲を測り評価している。

シラバスに書いてある観点と割合に基づき、各学生の成績を出しました。

- ・次の授業までの課題(練習)を明確に指示し、毎回の達成度をメモした。
- ・合奏1に関しては出席回数と練習(予習と復習)状況を重視した
- ・管弦打1については、出席回数と課題をクリアした数(曲数)、練習(予習復習)状況を重視した

西洋美術史・日本美術史については習得した知識を問う選択肢式の試験で評価、作品と知識が結びついていないかの確認に重きを置いた。美術史実習については、提出されたレポートにより評価、美術史的な問いの設定、その解明に関するプレゼンテーション能力の確認に重きを置いた。

授業でのとりくみ(知識、技能)を外化させるための作業日誌を作成させて、実習観察、製作品評価、レポート評価を総合して成績を出している。

合唱は、授業への取り組み方(出欠も含めて)と常に指導していることがどこまで出来ているかを、13、14回目の授業でチェックし、最後の演奏会もチェックして評価した。
声楽実習1、声楽1は、毎回の授業の取り組み方と最後の実技試験で評価した。

①基礎技能スキルテスト、②各種ゲームの評価、③観察による基本技術の分析レポート、④学習意欲・態度、⑤ルールなど知識の理解度、⑥出席状況の6観点を総合的に評価しました。②③⑥は毎時間のミニレポートでの記述内容、①②④⑤⑥は授業中(ゲーム中)でのパフォーマンスを評価対象としました。

スポーツ栄養学:出席点、プレゼンテーション、レポートを点数化し、その合計で評価した。
水泳:出席、授業態度、実習での取り組みを点数化し、その合計で評価した。
陸上:出席、授業への取り組み、小レポートを点数化し、その合計で評価した。

作品制作に向かうプロセスに対する習熟度と作品の成果に対する優劣を総合して成績をつけた。

毎回の授業への取り組み、課題のレポート、最終の発表を総合的に判断して成績を出している。

- ・適切な図面や写真を用いてまとめられている
- ・パンフレットからの引用にとどまらず、見学者自身の感想や視点が含まれている

実技試験の結果も大きく反映しているが、それだけでなく、半年間の上達度や、日頃の授業態度も加味している。

- 1 器械運動の基本技の習得(技の習熟)
- 2 受講生による運動観察記録(運動分析力)
- 3 毎時間の活動への参画姿勢(主体性・積極性, 協力・協働)

出席、指導した内容の理解度、到達度、最終テストを総合。

制作された2つの提出作品(100点満点×2)と、出席(90点ー欠席5点・遅刻2～3点)及び図案・講評会でのプレゼンテーションで総合的に判断している。

提出された課題と、課題への取り組み意欲

目的「効果的なバスケットボールの授業ができるようになること」

評価規準

- ・学習指導要領の趣旨をふまえた領域・学習内容が理解できているかどうか
 - ・単元計画・学習過程を自力で構成できるかどうか
 - ・ゲーム観察から評価の観点を作ることができるかどうか
- 以上を実技・レポートを通じて評価しました。

ゲームをプレイしているか。その上で気づいたことを共有していたかを基準とした。

学業成績は、「試験、授業参加度(出席)、レポート」を、シラバスにある割合で機械的に評価している。

授業のビジョンに対するプロセス

グループごとの発表(デモンストレーション)において競技特性の理解度と実施スキル。

個人的にはグループ内での役割の実践度。ゲームを実践するにあたって必要な基礎技術レベルへの到達度。

テストの成績中心

シラバスに掲載した基準で成績評価した。

出席点60点、態度点20点、実技点20点
S(5人)・A(16人)・B(9人)・C(3人)D(0人)

授業への出席回数と毎回の授業での発表試験により評価を与えている。

定期試験は行わず、《技能/表現》の観点で毎回の作品を中心に評価を行った。提出作品(第2回～14回までの13作品)そのものを、①題材の目的別達成度、②色や明暗での組み立て、③構図、④運筆の技術の4項目で評価した(80%)。また、それに加えて、授業後の学びや気づきについてのミニツツペーパー(数分で書く感想文)と、4つの課題(プロジェクト)に対する自己評価(20%)も併せ、合計5項目について5段階で評価した。上記について半期間の総合計から、成績評価を行った

報告書の内容から《知識/理解》、《思考/判断》する力の度合いを評価した。さらに、授業外の活動における調査や実験の過程や成果についても併せて評価した。

評価の方法は、①文章の説得力、②文章の構成、③調査や実験方法の正当性、④考察の妥当性、⑤知見の有用性、⑥引用の正当性、⑦プロセス評価(予習や調査)、⑧授業への出席回数について、①④⑤は20点満点、②③⑥⑦は10点満点で評価し(合計100点)、⑧に関しては、1回の欠席につき総点から5点を減じた。

授業にて制作した作品と制作過程をまとめたファイル及び、授業における取組みを総合的に評価。